

2015年4月23日／浪 宏友ビジネス縁起観塾／法華経の現代的実践シリーズ

問題解決のアルゴリズム

1. アルゴリズム

(1) アルゴリズムとは

「アルゴリズム」のもとの意味はコンピューターで計算を行うときの「計算方法」のことです。現在では、ものごとを行なうときの「やり方」、「手順」の意味でも使われるようになりました。

(2) アルゴリズムの内容

アルゴリズムは、ものごとを行うときの正しい手順、効率的な手順を内容としています。

アルゴリズムに表示された手順を間違えますと、無駄が多くなったり、結果を得ることが出来なくなったりします。

(3) アルゴリズムの重要性

より良いやり方、より良い手順を発見すれば、より良い結果を得られるので、アルゴリズムの研究は重要であると言えます。

2. 問題解決のアルゴリズム

(1) 問題解決のアルゴリズム

問題解決のアルゴリズムの一般形は次の通りです。

手順1 「問題」を、具体的に明らかにする。

手順2 「問題の原因」は、何であるかを、具体的に明らかにする。

手順3 「問題の原因」を解決すれば、「問題」が解決することを、具体的に明らかにする。

手順4 「問題の原因」を解決する方策・道筋を、具体的に明らかにする。

(2) 実践

問題解決のアルゴリズムによって「問題の原因」を解決する方策・道筋が明らかになりましたら、これに沿って実践し、「問題の原因」を解決し、これによって「問題」を解決に導きます。

3. ビジネス縁起観の主題

ビジネス縁起観は人間の問題、人間関係の問題を主題にしていますので、問題解決のアルゴリズムも人間の問題、人間関係の問題を解決することに絞って研究を進めています。

4. 事例1－仕事に取り組まない従業員

【事例】

一人の従業員を新しい仕事に就けましたが、一向に取り組みません。何故取り組まないのか、上司が調べてみました。するとこの従業員は、新しい仕事に対するスキルが未熟だったのです。仕事を忌避しているわけではないようなので、スキルさえ身につけば仕事に取り組めるという見通しがつきました。ある機関がこの仕事に関係する技術の研修を行なっていることが分かりましたので、この社員を研修に出してスキルを身につけさせることにしました。従業員は、初歩的ながらスキルを身につけて帰り、改めて、新しい仕事に取り組み始めました。

【事例の分析】

問題	一人の従業員を新しい仕事に就けたが一向に取り組まない。
原因の究明	何故取り組まないのか調べてみた。
原因	この従業員は、新しい仕事に対するスキルが未熟であった。
原因解決の見通し	スキルさえ身につければ仕事に取り組めることが分かった。
原因解決の道筋	研修に出してスキルを身につけさせることにした。
道筋の実践	その従業員を研修に出した。
原因解決から問題解決へ	従業員はスキルを身につけて帰り、仕事に取り組み始めた。

【残った問題】

従業員が仕事に取り組むようになったことで、この問題は解決しました。しかし、隠れた問題がまだ残っています。それは、この従業員が仕事をもらった時、自分はこの仕事に対するスキルがないので出来ませんと申告していないことです。大事なことを申告しないという重大な問題が起きていたのです。

この問題を解決しておかないと、のちのち、さまざまな差し障りが生じる恐れがあります。

上司がこの問題に気づき、本人と話し合ったり、業務の中で工夫したりして、解決の努力をするべきでありましょう。

5. 事例2 一失敗を繰り返す女性社員

【事例】

一人の女性社員が、このところ失敗を繰り返していました。今までになかったことなので、不思議に思った上司が、女性社員に事情を訊ねてみました。すると、子どもが病気で入院中だということです。そのことが気になって仕事に身が入らなかったのです。

女性社員は仕事を早めに終えて病院に行きたいという希望を持っていることが分かりました。それならということで、その方向で対策を立てることにしました。しかし、一人が抜けると周囲の社員にしわ寄せがいきます。他の社員に事情を説明して話し合いましたら、穴埋めはすると了解してくれました。そこで態勢をつくり、勤務時間の短縮を図ることにしました。

職場の協力態勢が機能して、女性社員の勤務時間の短縮が実現しました。すると、女性社員は、勤務中は仕事に集中することができるようになり失敗もなくなりました。

ほどなく子供は退院し、社内の協力に感謝した女性社員は高いモチベーションで仕事をしています。

【分析】

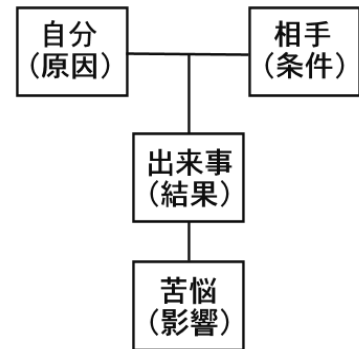
問題	一人の女性社員が、このところ失敗を繰り返している。
原因の究明	様子がおかしいので事情を訊いてみた。
原因	子どもが重い病気で入院加療中だという。そのことが気になって仕事に身が入らなかったのである。
原因解決の方針	仕事を早めに終えて病院に行きたいという希望なので、その方向で対策を立てることにした。
原因解決の道筋	他の社員とも話し合い、協力態勢をつくり、勤務時間の短縮を図ることにした。
道筋の実践	職場の協力態勢が機能して勤務時間の短縮が実現した。
原因解決から問題解決へ	女性社員は勤務中、仕事に集中することができるようになり失敗もなくなった
その後の好影響	ほどなく子供は退院し、社内の協力に感謝した女性社員は、高いモチベーションで仕事をしている。

6. 人間関係上の問題

人間関係上の問題が発生する経緯を、原因・条件・結果・影響の原理で考えますと、次のようになります。

- ・自分（原因）と相手（条件）との関係のなかで、
- ・何らかの出来事（結果）が起こり、
- ・ここから苦悩（影響）が生じます。

この関係を見ながら、問題解決のアルゴリズムを辿っていきたいと思います。



7. 手順1：「問題」を具体的に明らかにする

「問題」とは、ここでは人間関係から生じた「苦悩」です。

(1) 自分が苦悩している事実を認める

苦悩から目をそらしたり、背中を向けたりせずに、苦悩の実態を直視します。

苦悩しているのは自分である、自分が苦悩しているのであると、理性的に認めることができれば、手順1の入り口に立つことができます。

(2) 相手に対する感情を押さえる

人間関係で苦悩する人は、しばしば、相手に苦しめられているのだと主張し、自分が苦しんでいるのだとは認めません。これは一種の恨みです。こうした感情を押さえて「自分が苦しんでいるのだ」と認めることができれば、苦悩の解決のプロセスに入ることができます。

(4) 苦悩の内容を明らかにする

自分の苦悩（影響）はいかなる苦悩であり、いかなる出来事（結果）によって生じたのかを明らかにします。

その出来事（結果）は、自分（原因）と相手（条件）の間に何があったから生じたのかを明らかにします。

これによって、手順1が成立します。

8. 手順2：「問題の原因」は、何であるかを、具体的に明らかにする

(1) 苦悩の原因の一半は自分にある

自分が苦悩しているからには、その原因の一半は必ず自分にあります。これを明らかにするのが、これができれば手順2が成立します。

(2) 自分の振る舞いを振り返る

自分（原因）と相手（条件）のやりとりにおける、自分の身の振る舞い・言葉の振る舞い・心の振る舞いがどうであったかを振り返ります。

自分の中に、苦悩のもととなる出来事（結果）を起こす振る舞いがあったはずですが、それを明らかにします。これによって、手順2が成立します。

(3) 自分の無明・煩悩を振り返る

苦悩のもとになる出来事（結果）を起こす振る舞いが明らかになったら、さらに自分を振り返ります。その振る舞いの奥には、無明・煩悩があります。

自分のこの無明からこの振る舞いが生じた、自分のこの煩悩からこの振る舞いが生じたと具体的に明らかにすることができれば、手順2が、さらに深く成立したと言えます。

9. 手順3：「問題の原因」を解決すれば「問題」が解決することを具体的に明らかにする

(1) 自分の振る舞いを変える

相手（条件）に対する自分（原因）の振る舞いを変えれば、自分（原因）と相手（条件）の関係が変わりますから、出来事（結果）が変わります。

自分（原因）のこの振る舞いをこのように変えれば、出来事（結果）が変わるから、苦悩（影響）は生じないと明らかにします。これによって、手順3が成立します。

(2) 自分の無明・煩悩を解決する

自分の未熟な振る舞いの奥には、必ず無明・煩悩があります。

そこで、自分のこの無明をこのように解決すれば自分の振る舞いが変わると明らかにし、自分のこの煩悩をこのように解決すれば自分の振る舞いが変わると明らかにします。これによって、手順3が、さらに深く成立します。

10. 手順4：「問題の原因」を解決する方策・道筋を、具体的に明らかにする

(1) 自分を変えるための方策・道筋

苦悩の解決のためには、自分のどの振る舞いをどのように変えればいいのか分かりました。

しかし、身についてしまっている振る舞いを変えるのは簡単ではありません。プランを立てて、意識して努力を重ねることによって、少しずつ変えていくほかありません。

また、苦悩の抜本的な解決のためには、自分のどの無明、どの煩悩を、どのように解決すればいいのか分かりました。しかし、これはさらに困難な課題です。だからといって放棄してしまえば、今後も苦悩の人生を歩むほかありません。

やはり、プランを立てて、地道に取り組み、時間をかけてでも解決しなければならないことだと思います。

(2) 自分を改める方策・道筋

七仏通誡偈に「諸悪莫作 衆善奉行 自浄其意 是諸仏教」とあります。

これに沿って、自分を改める方策・道筋を考えます。

「諸悪莫作」ですから、自分の誤った振る舞いをやめようと心に決めます。

「衆善奉行」ですから、自分の誤った振る舞いを打ち消す方向性を持った正しい振る舞いをしようと心に決めます。これによって、手順4が成立します。

(3) 無明を解決する

無明の解決のためには、真理に基づく智慧を学びます。

これによって、振る舞いを改める努力の裏付けを強化することができます。

(4) 煩悩を解決する

煩悩の解決のためには、起きやすい煩悩が起きないように気をつけます。

同時に、起きやすい煩悩を打ち消すような、真理にかなった行いをします。

これを繰り返すことによって、いつしか煩悩が起きにくくなり、自然に真理の道を歩めるようになります。

1.1. 実践

手順4で明らかになった方策・道筋を実践します。

これによって、無明も晴れ、煩悩もしずまって、誤った振る舞いをしなくなります。

さらに、正しい振る舞いが自然に行なわれるようになります。

これが「自浄其意」の境地です。

1 2. 相談事例一相手の意見を受け止める

【相談】

私が意見を言うと、Aさんは必ず否定するか、反対意見を出します。私はムカッときて、言い返します。するとそれに輪をかけてAさんが跳ね返してきます。ほとんど困ってしまいました。

【ビジネス縁起観による取り組み】

(1) 問題は何か

- ① Aさんを直そうと思っても、こちらからは直しようがない。Aさんにはそういう性質があるのだと受けとめるほかはないと言われました。確かにその通りです。
- ② この場合は、自分がムカッときて、言い返してしまうことを問題として捉えるべきだと指摘されました。ムカッときて言い返しているのは、Aさんと同じことをしているに過ぎないということです。そういえばそうだなと思いました。

(2) 問題の原因は何か

自分がムカッとくるのは、Aさんの意見を受け止めてないからで、相手の意見を受け止めない心の狭さが、この問題の原因であることが理解できました。

(3) 問題の原因解決から問題解決への見通し

それなら、相手の意見を受け止めることができれば、問題は解決するのではないかと指摘され、そうなるなと思いました。

考えてみれば、私は、他人の意見を受け止めるのがかなり下手なことに思い当たりました。

(4) 原因解決の道筋

相手が誰であろうと相手の意見を受け止めることができる自分になるために、相手が意見を言ったとき、「君の意見はこういうことか」と確認することにしました。

(5) 原因解決の道筋の実践

人から意見を言われたとき、特に自分の意見に反対されたとき、ついムカッとくるのを押さえようと努力しました。そして「君の言いたいことはこういうことか」と、確認するように努めました。

(6) 実践の結果

始めはうまくいきませんでした。意識して努力するうちに相手の意見を受け止めることができるようになりました。Aさんの反対意見も、なんとか受け止めることができるようになりました。

(7) 実践の成果

このような努力をくり返しているうちに、周囲の人たちも、私の意見を受け止めてくれるようになっていました。

Aさんだけは、相変わらず受け止めてくれませんが、私は、腹が立たなくなりました。